

『もう1回!』 5歳児 12月 伏見こども園

大縄で遊び出した11月頃は、保育者が縄を回し、何回跳べるかを楽しんでいましたが、12月に入ると他の遊び方をする姿も見られるようになり、保育者がいなくとも「私が回すね」と友達と交替で縄を回して跳ぶことが増えています。

エピソード

Aちゃんが「回すよ」と言って縄を回し始めました。Bちゃんは「走ってきて跳ぶから回しててな」と言って、回る縄を目で追い、タイミングを見計らって走り出しました。縄に入ったと思い、跳んだBちゃんでしたが、縄に引っかかってしまいました。Bちゃんは「あ～失敗。もう1回!」と何度も挑戦しますが、縄が頭や腕に当たり、なかなか跳ぶことができません。保育者が「この辺まで来て跳んでみたらどう?」と地面に丸い印を書いてみると、Bちゃんは「やってみる!」と再び挑戦しました。すると、引っかからずに跳ぶことができ、Bちゃんも縄を回していたAちゃんも「跳べた!やったー!」と喜んでいました。



走ってきて跳ぶよ(挑戦)



頑張って!(応援)

今だ!跳べた!(喜び)



やったー!(喜び)

次は3人で跳ぼう(挑戦)



気持ちを合わせないと
(助言)

こっち向きはどうかな
(提案)

縄をよく見よう(意思)



立つ場所がわかると
いいかな(提案)



そこへ数人が「入れてー!」とやってきました。今度はBちゃん、Cちゃん、Dちゃんが3人で一緒に跳ぼうと縄の近くに立ちました。Aちゃんが「いくよ」と、縄を回しますが、2回ほど回したところで引っかかってしまいました。「あれ?!!」と跳んでいた3人は笑い合い「もう1回!」ともう一度跳び始めますが、すぐに引っかかってしまいます。Cちゃんが「こっち向いてみようかな」と体の向きを変えて跳んでみたり、並ぶ順を変えて跳んでみたりしますが、なかなか続けて跳ぶことができません。跳んでいる3人が笑い合いながら何度も挑戦していると、Aちゃんが「気持ちを合わせないとあかん」と声を掛けました。3人も「そうやな」「縄をよく見て跳ぼう」と、Aちゃんの言葉を受けてまた跳んでみようとしたときに、Dちゃんが「立つところに線かこう」と言って線を引き始め「枝もあった。これ置こう」と立つ位置がわかるように置いて並び、「もう1回!」と、跳べるにはどうしたらいいか考え、いろいろな方法で繰り返し跳ぶことを楽しんでいました。

子どもの育ちや学び

- ・「走ってきて跳びたい」「3人で跳びたい」と目的をもって挑戦する。
- ・跳ぼうとする友達を見て励ましたり助言をしたりしながら、タイミングや回し方を考えて縄を回す。
- ・縄に引っかかり跳べなくとも友達と笑い合い、体の向きや立つ位置などを考え、「もう1回」と繰り返し跳ぶ。
- ・跳ぶ人も縄を回す人も友達の様子や縄を見て、気持ちを合わせることで跳べると考える。

保育者の思い

- ・Bちゃんが走って縄に入り、跳ぼうとする様子をしばらく見守っていましたが、縄が近づくとどうしてもそこで止まって縄に当たってしまいました。止まる位置が分かることで跳べそうだったので、目印を示してみました。
- ・友達が跳びやすいうように縄を回しながら、励ましたり一緒に喜んだり、見ている側から感じた「気持ちを合わせる」ことを伝えているAちゃんが素敵だなと思いました。Aちゃんの言葉があることで、一体感が感じられました。
- ・大縄を始めたころは、跳ぶのも回すのも慌ててしまう姿が多かったです。跳ぶ子も回す子も友達の様子や縄をよく見ることが増えたことで、跳ぶ回数だけでなく、友達と笑い合い、いろいろな跳び方をやってみようとする気持ちにつながったのかな、と思いました。

家庭だったら

うまくいかないことも一緒に楽しんで笑い合える友達の存在が「もう1回」と、やってみようとする気持ちを支えていたのだと思います。できるようになることだけではなく、「もう1回」と挑戦しようとする気持ちを大事にしていきたいですね。